

研究室紹介

山形県農業総合研究センター 水田農業研究所

山形県農業総合研究センター水田農業研究所は、大正9年（1920年）に山形県農事試験場庄内分場として、旧東田川郡藤島村（現 鶴岡市藤島）に創立され、令和2年（2020年）に創立100周年を迎えました。

組織機構の改編などにより、「農業試験場庄内分場」「農業試験場庄内支場」「農業生産技術試験場庄内支場」「水田農業試験場」と名称を変更しながらも、創立以来、現在の藤島の地を動くことなく、地域に密着した農業試験研究に取り組んできました。

この間、いもち病、ごま葉枯病、田畑輪換の指定試験地を経ながら、昭和20年から30年代にかけては食糧増産、昭和40年以降は機械化稲作技術の確立や水田転作物の栽培技術の確立にも取り組みました。昭和39年（1964年）からは水稻の品種育成を開始し、現在では水稻の新品種育成に取り組む県内唯一の研究機関です。

研究体制は、所長、副所長、総務課（事務3名、研究技能員7名）、水稻部（研究員9名）で、近年の試験研究の成果は、‘つや姫’・‘雪若丸’の育成のほか、酒造好適米‘雪女神’の育成や庄内地域特有の強風を中心とした気象災害による作柄要因解析、直播栽培等生産者が求める新たな栽培法の確立にも取り組んでいます。また、受託試験として、新農薬の効果と使用法試験を実施しています。ここでは現在実施中の主な研究課題を紹介します。

1 第VI期水稻主力品種の育成

‘あきたこまち’熟期の早生で中山間地域のブランド品種および‘つや姫’より遅い熟期の極良食味品種の育成、



100周年記念碑



研究棟、作業棟、温室等の全景

また、収量700kg/10a以上で低価格でも所得が確保でき、業務用需要に見合う多収品種の育成に取り組んでいます。

2 第IV期地域特産型水稻品種の育成

酒米では、蒸米消化性の簡易評価を導入し、‘美山錦’タイプの酒造適性を持つ品種の育成、糯米では、‘でわのもち’熟期で穂発芽性や収量性が優る品種の育成、飼料用イネでは、収量性が優り、県内での栽培に適応し低コスト生産を可能とする品種の育成に取り組んでいます。

3 水田土壌強還元による初期生育阻害要因の解明と技術対策の確立

土壌強還元と水稻の初期生育に及ぼす影響を解析し、早期に把握するための評価手法について検討しています。また、土壌の強還元を解消するための稲わら分解資材や有機物等の施用技術や除草剤の効果等を考慮した、初期の水管理技術の確立に取り組んでいます。

4 水稻出穂前高温に対応した水稻の安定生産技術の確立

温暖化に伴う気象変動により、水稻の収量や品質低下が問題となっていることから、水稻生産の安定化を図るため、出穂前高温による収量・品質低下が懸念される場合の対応技術の確立に取り組んでいます。

5 ‘雪若丸’ブランド確立に向けた高品質・良食味米の低コスト・安定生産技術の開発

‘雪若丸’の生産において、省力・低コスト化を図りながら、高品質・良食味米としてのブランドを確立するため、気象や土壌条件に応じた直播栽培や高密度播種苗栽培における技術開発に取り組んでいます。

（水稻部長 佐藤智浩）

〒999-7601 山形県鶴岡市藤島字山ノ前25
TEL 0235-64-2100